

令和7年度前期（令和7年4月～9月）

政務調査研究報告書

政務調査とは…

市議会の各会派では、今後の政策の立案、提言に生かし、ひいては市民益につなげていくことを目的に政務調査を実施しています。

先進地視察などの調査研究活動の内容は、報告会で発表するとともに、市議会のWEBサイトでも公開しています。

この調査には、議員1人あたり年額14万円の政務活動費を活用しています。

<https://www.city.iida.lg.jp/>

令和7年9月

飯田市議会

目次

■新政いいだ

- 「ウェルビーイング型体験カルチャー「ネオカル TOYOOKA」について（兵庫県豊岡市）…………… 1
- 「廃校を活かして自然と暮らしを楽しむ拠点【NATURE STUDIO】について（兵庫県神戸市） …… 7
- 「地域共生拠点・あすパーク」について（兵庫県神戸市）…………… 10
- 「地域に貢献する再生可能エネルギー事業」について（兵庫県洲本市）…………… 14

■公明党

- 「三田市・三田観光ビジョン「三田ふるさと未来図」について（兵庫県三田市）…………… 17
- 「おの（小野市）夢と希望の教育への取組み」について（兵庫県小野市）…………… 21
- 「南あわじ市 医療的ケア児(者)支援に対する取組み」について（兵庫県南あわじ市）…………… 23
- 「新人議員セミナーin飯田『議員の資質向上と議会運営の基本』」について…………… 27

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派新政いいだ (文責：岡本恒和)	支出伝票No.	
事業名	兵庫県豊岡市・ウェルビーイング型体験カルチャー「ネオカル TOYOOKA」		
事業区分 (該当へ〇)	① <u>調査研究費</u> ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

豊岡市の6つの地域、特色を活かしたまちづくり「六面体豊岡」の取組みと「ネオカル TOYOOKA」のコミュニティ・ツーリズムを調査する。市民、学生、事業者等の共創による持続可能な交流、健康増進、文化・スポーツの取組みを行っており、市民と来訪者が交流を楽しめる場やつながりの機会を創出しており、先進取組事例として調査研究するため調査地に選定した。

(2)実施概要

調査・研修の場合の実施日時と訪問先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	令和7年7月30日(水) 13時30分～15時00分	豊岡市役所 ・観光政策課 課長 中田啓之様 ・観光政策課 係長 沖中正孝様 ・観光政策課 主任 大谷理紗様 ・議会事務局 局長 坂本英津子様 ・ 主事 菅谷祐一様

報告内容・実施したこと

1、視察先(市町村等)の概要

兵庫県豊岡市
 平成17年(2005年)4月1日、6つの市町合併により市制施行
 面積：697.55 km²
 人口：74,604人 世帯数：33,722世帯 (2025年3月31日現在)
 財政規模(2025年度当初予算) 一般会計歳入 51,180,000(千円)

北近畿エリアの地方都市で温泉、海、山、城下町、農村…と多様な環境。
 カバンのまちとしてカバン産業が盛ん。

主な名所は、開湯1300年の歴史を持つ木造三階の旅館が軒を連ねる温泉街「城崎(きのさき)温泉」、山陰海岸ジオパーク(世界ジオパーク)のメインスポット「玄武洞(げんぶどう)公園」、信州上田ゆかりの300年の伝統「出石(いずし)皿そば」、日本で最も標高の低い高原リゾートで1年を通してアウトドアが楽しめる「神鍋(かんなべ)高原」、世界ジオパークに登録された「竹野海岸」、花のまち但東「チューリップまつり」など。
 主な特産品に「津居山カニ(松葉ガニ)」、「但馬牛」、「コウノトリ育むお米」などがある。

2、視察内容

【豊岡のまちづくり】について

食、自然、温泉、アート、城下町、伝統産業…。
 それぞれの個性が際立つ6つの地域が一つに凝縮している豊岡を、どう転がっても面白い目が出る六面体、「豊岡六面体」と銘打ち展開している。

(1) 豊岡市の産業部門別 域際収支のトップ3

1. 宿泊業(+飲食業)(観光)
2. カバン産業
3. 農業(米)

(2) 豊岡市の外国人観光客延べ宿泊数の推移

2019年：63,648人

2024年：78,699人（2019年比+23.6%過去最高を記録）

(3) 豊岡市の観光入込客数（2024年）

○日帰り客数：約203万人

○延べ宿泊者数：約83万人

(4) カバンのまち（カバン産業）

明治時代から衣装ケースを作っていたが、時代の移り変わりでカバン産業が発達してきた。日本一のカバン生産量を誇るまちとして「カバンストリート」には数多くのカバン店が軒を連ねる。

鞆に使う部分を切り抜いた後の革、漁網（ぎょもう）再生素材、廃材を利用した小物づくりで、持続可能な社会を目指した取り組みを行っている。

鞆組合が運営する「カバンアルチザンスクール」（定員13名程度）では2014年の開校以降100人以上が卒業し、卒業生の約半分が市内の鞆企業に就職しており、次代の担い手を育てている。

(5) コウノトリ野生復帰とコウノトリ育む農法

1971年コウノトリは豊岡あのを最後に生息地として日本の空から消えたが、2005年豊岡の地から再び日本の空へ。（2025年500羽を超える）

コウノトリの餌となる生きものが生息できよう無農薬・減農薬の田んぼで作られる「コウノトリ育むお米」。市内の水稲作付面積の19.1%にあたる512haで作られている。最大の消費地は特に営業をかけた沖縄県で400トン以上。海外にも販売。

(6) 演劇のまちづくり「豊岡演劇祭」

豊岡演劇祭は様々な地域課題解決への取組を進める契機として位置付けられている。

○観光：城崎温泉は9月は閑散期で観光客誘致拡大を目的に9月開催とした。

経済波及効果は約1億8000万円（2024年）

○市民参加：観光客も市民も交流。大学生が運営に関わり関係人口の増加。

○次世代育成：演劇的手法を使ったコミュニケーション教育を市内全校小6、中1、高校の授業で実施。

(7) 4年制公立大学「芸術文化観光専門職大学」の誘致

○2021年4月開学

○学部学科：芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科

○定員80人/学年

2025年3月の卒業生61人のうち、8人が豊岡に定着。

(8) 一般社団法人 豊岡観光イノベーション（TTI）

当該地域の関係者の力を結集し2016年設立、来訪者、滞在日数、消費額、観光まちづくりの参加者を増やし地域経済の活性化に寄与することを目的としている。

TTIが現場の最前線、行政（観光政策課）が観光施設の管理、観光政策全般と協働で進めている。

○海外向け外国語版観光公式サイト（ビビット城崎）の運営とWebマーケティング

60の体験プラン（メニュー）を販売。

ユーザー数は2024年度698,664

2019年度の3倍、2023年の1.5倍に伸びている。

【ネオカル TOYOOKA】について

- 2019年3月「国内誘客促進強化のための情報発信戦略」を策定。
- 目指すべき姿として、共感や交流を軸に旅先を選び、楽しむ「コミュニティ・ツーリズム」の確立を目指す。
- コロナ禍で生まれた価値観（健康・幸福志向、環境への配慮、自然志向）に対応した体験カルチャープログラムを開発する。

(1) 豊岡発＝ネオカルチャー

『健康で幸せにつながる体験カルチャーの創出による「まちづくり」』

- ① 誰もがイキイキと幸せに過ごすことができる新たなライフスタイルの構築
- ② 市民と来訪者がつながり、相互に交流を楽しめる場やつながりの機会創造

(2) ネオカル TOYOOKA プログラムの推進体制

運営／豊岡市（観光政策課、健康増進課、文化・スポーツ進行課）

芸術文化観光専門職大学 高橋伸佳 研究室、豊岡観光イノベーション
業務／ブランドの普及啓発、プログラムの認定、プログラムの販売等

以下の3つのカテゴリに即したプログラムの募集と相談会の実施、認定審査会の実施、認定したプログラムを公式サイトで販売。

- ①アウトドア&スポーツ →「挑戦と成長」
- ②リトリート&ビューティー →「癒しと健康」
- ③ワーケーション&ブレジャー →「芸術と創造」

※販売中のプログラムの一例

「但馬牛といっしょに歩くアニマルセラピー（試食付き）」

→牛と一緒に散歩したあとは、感謝の心をもって但馬牛を試食

（これは畜産農家さんの企画）

【ネオカル TOYOOKA】のコンセプト

(1) ネオカル TOYOOKAが日本初だという理由

「創発と共創を持続的に生むウェルビーイングエコシステ

④単なる観光・旅行でもなく、健康増進活動でも文化・スポーツでもない、領域を超えた体験カルチャー

○ターゲットは市民、来訪者双方

○着地型観光やニューツーリズム、健康増進、文化・スポーツプログラムという括りなし

○誰でもサービス提供者になれる！オープンソース型発想（開発基準開示）

(2) 豊岡市の人口問題からみる「ネオカル TOYOOKA」事業の必要性

○人口は2040年に57,770人になると推計（2060年には38,529人）

→交流人口、関係人口の創出

○高齢者は26,892人、高齢化率33.6%

→健康増進、介護・福祉の新たなソリューション

○若者回復率（2010年から2015年時点での10歳代の転出超過数に対し、20歳代の転入超過者数が占める割合）は39.5%と低位

→さらに魅力的な産業とライフスタイルの創造

(3) 社会背景の変化からみる「ネオカル TOYOOKA」事業の必要性

○テクノロジーの発達による働き方や生活の変化。テレワーク、リモートワーク等に伴う健康問題。

○「幸せかどうか」が問われる社会に。しかし…世界幸福度レポートにおける日本の幸福度は54位。

(4) 今後の展開について

- BtoB（企業間取引）：市外の団体や企業をターゲットにマーケティングを実施。コウノトリ、農業、カバン、地域の魅力を掛け合わせて
- ネオカル TOYOOKA を通じて、企業内のみならず企業間の交流を図り、働く世代の健康意識の向上やウェルビーイング、繋がりづくりへ（定着率向上）

(5) ブランドの推進によって目指す姿

- 市民や来訪者があちこちでランニングやウォーキングなどのスポーツを楽しんでいる
- 市民や来訪者が豊岡の地産地消の食を楽しんでいる
- 市民や来訪者が豊岡の大自然を活用して、休養・保養をしている
- 市民が豊岡の温泉等を活用した健康的なライフスタイルを楽しんでいる
- 市民と来訪者が交流を楽しみ、新たな人間関係を育んでいる
- 来訪者が豊岡市を何度も訪問したり、長く滞在している

3、質疑応答

1. プログラムに参加した住民や観光客からの反応については？

「純粋に楽しかった」という意見のほか、「今日のアドバイスを活かして子供たちのサポートができたら」、「今後の生活に活かしていきたい」、「継続的な健康につながる」という意見も多くある。

2. 取り組みを地域で行う際に、どのような点に注意すべきだと考えるか？

- 学識のある方に参加してもらうことは大事だと考えておりソリューションをうまく見つけていく必要がある。BtoBを今後狙っていくところではよりそういったエビデンスが必要。
- 付加価値を付けてアイデアを提供しているということもあり、単価が上がってしまう懸念がある。

3. 参加者の傾向は？

- 兵庫県内から 56%、大阪府から 20%、京都府から 10% 他
- 年代別では 10代 5%、20代 8%、30代 13%、40代 20%、50代 20%、60代 26%、70代 8%
- 兵庫県内市区郡別では、豊岡市からが 45%、豊岡と同じエリアの朝来市、美方郡など含めて 7割を占めている。

4. 人員確保は？

事業者任せにしているが兼業で取り組まれている方が多く、人員は十分には確保できていない側面がある。

5. 一年を通じて豊かな食材に恵まれているのか？

全てが食のプログラムではないが、季節や健康の影響、仕事との兼ね合いで、例えば農業体験での食材を収穫するプログラムの場合、収穫が本業の収穫の時期と被った場合には人員不足となり、十分に提供しきれない現状がある。

6. 無農薬の田んぼの推進の取り組みは、どのようなものか？

補助金だけでなく、手間暇かけ研修も行いリスクも背負って取り組んでいるので付加価値をつけて買い取ることが必要とのことから農協にも大変に協力いただいた。それが環境と経済が共鳴していくことにつながる。

	<p>7. 専門職大学の誘致の経緯は？</p> <p>地方創生の一環で「突き抜ける政策」を進め、演劇界の第一人者が豊岡に公演に来た際、採算性の悪い県立施設の活用を相談したことをきっかけに、そこから勉強を色々深め、芸術文化がまちづくりにどう寄与できるかを整理していく中で大学誘致、演劇のまちづくり「演劇祭」にも繋がっていった。</p> <p>8. 大学の卒業生は地元に残ったか？</p> <p>61人の卒業生のうち、8人が定着している。</p>
感想(まとめ)・市に活かせること等	<p>4、感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学誘致の強みを最大限に活かし、交流人口、関係人口の増加につなげている。 ・ 豊岡市の取組は飯田市の二歩、三歩先を行っており、行政の取組姿勢も前向きかつ挑戦的であり、飯田市の模範としたい。 ・ 非常に先進的な取り組みをしているが、果たしてそれが市民にどう受け止められているのかが気になる。尖った施策は同業者には評価されるが、では実際に尖った政策によって市民益がどれほど向上したのか？それがデータで出せたとしても、「良くなった」と市民に実感されているのか。 ・ 質疑の中で「市民を巻き込んだ観光（交流）を実現したい」とあった。飯田市でも人形劇フェスタの地区開催などがあるが、開催する地域側としては負担感を感じることもある。説明をいただいた「市民を巻き込む」の意図をどう捉えるのが良いのか。 ・ 元々良い温泉地域があり環境は良い。そこに何をプラスに持っていくかが必要。 ・ 六面体豊岡のロゴ、アイデアが良かった。 6つだと多いので、せめて3つくらいは自慢できる何か欲しい。 ・ 豊岡市は飯田市と面積や人口などが似ているが、ネオカル TOYOOKA をはじめ先進的な取り組みが行われている。元々観光業が盛んではあるが「芸術・文化」でまちづくりを行うと決め、尖って、突き抜ける政策をされている様に感じた。 尖って突き抜けるからこそ、他と違う特色が生まれ、人々が訪れてみたいと感じるのではないか。

・豊岡市は街の特性を存分に生かしている、八方美人的な市政ではない。これは、一方では外部受けするし、街の魅力にもつながる、しかし、一方では、重点項目以外の施策がおろそかになるおそれもあり反感を持つ市民も出てくる、どちらが正しくて間違っている、という問題ではない。

・カバン産業を育む取り組みが良い。スクール卒業生半数以上が地元へ就職している。

5、今後飯田市に活かせること等

・体験型の観光誘致は、飯田市でも取り組んでいる。違いは受け入れる側がどれだけ楽しめるか。

・行政の取組姿勢(前向きで挑戦的)を裏打ちするエビデンスがあることと、アウトプット(実行)するだけでなく、住民満足(ベネフィット)を観測し、それを政策サイクルに活かしている点。

・「観光」ではなく「交流」という考え方・捉え方。

・市民のウェルビーイングとヘルスツーリズムを融合させた考え方。

・飯田市も平均的に良いことをしているが突き抜けたことが少ない。

・環境と経済は共鳴する。(無農薬・減農薬の)付加価値の高いお米を作ると高い値段で売れて、それが環境と経済が共鳴していく。

・観光を考える時に、観光と地元市民とのつながりを意識する視点が必要であり、その為にも市役所の横断的な取り組みが不可欠である。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

○会派として調査継続中。

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派新政いいだ (文責: 正木利幸)	支出伝票No.	
事業名	廃校を活かして自然と暮らしを楽しむ拠点【NATURE STUDIO】		
事業区分 (該当へ〇)	① <u>調査研究費</u> ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的: どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

昭和時代に建築された社会インフラが人口減を迎え必要と無くなってきている。それを取り壊すのではなく活かすことで地域社会の発展に寄与しようという試みを調査する

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時 令和7年 7月31日 (木) 10時00分～ 12時00分	訪問先・主催者等 有限会社リバーワークス 上戸了子 様
--	--	---------------------------------------

報告内容・実施したこと

1. 視察先 (市町村等) の概要
 兵庫県神戸市
 人口 1,487,267 人 世帯数 755,447 世帯 (令和7年7月16日現在)
 視察先の兵庫区は、
 人口 110,721 人 世帯数 66,451 世帯

神戸市は政令指定都市ではあるが、視察先の兵庫区は、市中心部の西山寄りに位置し、震災の影響も少なかったため、昔の面影を残している。山にも近く高層マンションも少なく、神戸市の中では自然豊かな場所である

2. 視察内容

① 【NATURE STUDIO】の経緯

2015年に湊山小学校が廃校となり、地域の4小学校が一つに統合された
 2018年に市役所が、民間事業者へ廃校の活用方法を調査依頼したところ、村上工務店が認定を受け、事業を展開
 2022年にオープン

村上工務店は事業主であり、年商50億円、社員80名の総合建設業である。
 運営主体のリバーワークスは、村上工務店の子会社であり、街づくりの企画・運営などを行っている

② 【NATURE STUDIO】立地の特性

兵庫区は平清盛ゆかりの地である。戦災や震災の被害が抑制的であったため、木造密集住宅地が残っている
 主要駅からあまり遠くはないがバス便が敬遠されていて駐車場適地も少ない。

以上を検討して、将来的には、空き地や空き家を利用して緑豊かな住宅地になると未来図を描く

緑豊かな自然環境を魅力とした暮らしやすいエリアへと進化していくために、廃校を活用して、自然と暮らす地域を創っていくことを目的とした

③ 【NATURE STUDIO】のコンセプト

まず一つは、地域と密着していること、そのために、廃校内に保育所や学童保育所、高齢者のデイケアサービス、クリニックなどを設ける

次に地域外からの集客を求めて、水族館やビール醸造・販売などを行う

それらをつなぎ合わせるために、飲食店やハーブ店などを設ける

④ 【水族館】のコンセプト

民間事業による小規模な水族館

「生き物と語る」をテーマにリピートが期待できる水族館の時間の過ごし方を提案

⑤ 事業スキーム

校舎と体育館は有償譲渡、土地は15年間の定期借地権

事業費 約13億円（うち建築工事費は10億円）

水族館事業についての補助金はない

⑥ 地域への波及効果

設立初年度は珍しさもあり年間15万人の集客があった。

80人規模の雇用を創出することができた。従事者が施設内の保育サービスを利用できるなど相乗効果も生まれる

交通利便性がそれほど高くなかったため、市のバス路線と連携して『市バス沿線を楽しむマップ』を作製した

⑦ 【NATURE STUDIO】がもつ意義

学校の機能を引き継ぐことで、地域と一つになった施設として、子育てを軸としたコミュニティづくりに貢献できている

また、訪問医療や介護など地域の福祉活動の場としてのコミュニティ施設として活躍している

さらに、地域コミュニティの場所として様々なイベントを開催している

3. 質疑応答

1. 4校の統廃合とあるが、他はどのような形をとったか？

1校はサービス付き高齢者向け住宅、もう1校は商業施設マンションになっている。校舎の特性を生かして活用しているのはこの1校だけである

	<p>2. 経営面ではどうか？</p> <p>水族館の利用増が貢献して今のところ黒字経営である。どこの水族館もそうだが、最初は目新しさもあるので集客増は見込めるが、今後さらなる対策を練る必要がある</p> <p>3. 事業を計画立案したときに重視したことは？</p> <p>村上工務店の社長は、校舎を活かすことで社会的意義が増し、地域課題解決にもつながる、と考えて決断した。ちなみにサウンディング調査時に他社の提案はすべて、単なる跡地利用、または売り上げ増に関わるものだった。</p> <p>4. 事業を進めていく上での懸念は？</p> <p>15年間という定期借地権。15年で事業資金を回収できるか不安である、せめて20～25年くらいは欲しいのが実情</p>
<p>感想(まとめ)・市に活かせること等</p>	<p>2、感想</p> <p>神戸市は大好きな街で何度も訪れていたが、この場所は観光客のものではなく、まさしく地域住民のものである。そして、事業主の村上社長の先見性が活かしている。これからの時代は、地域づくり、人づくりが大切で、そのために意義ある施設を創ろう、という考えが至る所に見られる。そして、施設内にある多くの場所や物がすべて繋がっている。地域内で暮らす人々が集える場所でもあるし、近隣市町村から日帰りでふらっと楽しめる場所でもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リノベーション前に卒業生や近隣住民に丁寧な説明とお別れ会を実施され、理解をえられていること。 <p>3、今後飯田市に活かせること等</p> <p>複合的な地域拠点というコンセプト 一つの場所でいろいろなサービスが受けられるため、必然的に人が集まり、にぎやかさが生まれる、そしてそこに雇用も生まれる 所謂コンパクトシティの概念である。</p> <p>飯田市は面積が広く拠点もあちこちに点在している。一つの場所に集約していく方向性も大いに考えられる。</p> <p>この水族館のように、指定管理から委託運営など収入を増やす方法もあるのではないかと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田市において今後課題となってくる「廃校の利活用」は、会派の政務調査項目の一つとして位置づけ、他の先進事例視察も含めて調査活動を続けていければと考える。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

○会派として調査継続中。

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派新政いいだ (文責: 岡本恒和)	支出伝票No.	
事業名	兵庫県神戸市 地域共生拠点・あすパーク		
事業区分 (該当へ〇)	① 調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的: どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

震災後の生活課題を、つながることで解決を目指し共生の精神を大切にしながらの様々な活動、中間支援の取組みを視察する。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	令和7年7月31日(木) 13時00分~14時00分	地域共生拠点 あすパーク 神戸市灘区中郷町5丁目1 大和公園内
報告内容・実施したこと	<p>1、視察先(市町村等)の概要</p> <p>「地域共生拠点・あすパーク」は認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸が、阪神淡路大震災後25年を機に建設した民設民営の施設である。 震災後、神戸のまちは復興したが、近年は少子超高齢化による家族機能の低下、格差による社会の分断、地域コミュニティの脆弱化が進行し孤独死、引きこもり、子どもの貧困問題等かつてない生活課題が顕在化している。このような課題を解決するため、協働の場として、サポートの場として、またプログラム等の調査・開発・実施をする場となっている。 中間支援事業として、NPOなどの団体を立ち上げる支援を30年で1,000件の実績。 5周年を迎えた2024年度は年間7,800名の利用、4団体の立ち上げ支援、25団体が定期利用する拠点となっている。 施設は震災直後、実際に避難所となった大和公園内にある。</p> <p>2、視察内容</p> <p>(1) どのような人に向けての場所なのか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定年後、ボランティアや社会貢献活動で仲間をつくりたい。趣味だけでなく、キャリアを活かして社会に役立ちたい。 2. 得意なことや好きなことを活かして講座を開きたいが、一人で開催するのは不安。集客のことも相談に乗ってほしい。 3. これからの会社経営にはCSR(企業の社会的責任)、CSV(社会価値と企業価値の両立)、SDGsの視点が不可欠なのでアドバイスや具体的な地域とのつながりが欲しい。 4. 仲間を集めて団体を立ち上げたいが、活動場所や事務所が見つからない。運営方法のアドバイスも欲しい。 5. 公園の中で親子で作ったものをフリマボックスで販売したい。子ども食堂も手伝いたい。 	

(2) イベント・事業の例

1. 「いっしょにつくろう！わいわい食堂」
自立して就労を学ぶ障がい者の方も参加して皆でワイワイ楽しく作って食べる食堂。
2. 「つなぐ おにぎり食堂」
おにぎりを通じて食育・子育て応援や孤食解消につなげていく食堂。
3. 「ふるさと料理と交流の会/食堂」
山口瓦そば、千葉つみれ汁、香川讃岐うどん、新潟ののっぺ汁、秋田しょつつる鍋、福井なまぐさ汁等、全国のふるさと料理に挑戦する。独りのキッチンから抜け出し皆とつながり交流する食堂。
4. 「みんなのひろばリーチ」
皆でお茶を飲みながら心地よい時間を過ごす。小さなお子様連れでも一人での参加も。
5. 「ソーシャルカフェ」
日本の食糧事情について考える。
6. 「あすパークこどもリビング」
自ら考える子を育むこどもの居場所。(神戸市補助事業)
7. 「夏休み企画・バンド&楽器体験」
色々な楽器を演奏してみる。
8. 「夏休み企画・ハンドメイド体験」
 - ①キラキラ・ホルダーを作る
 - ②貯金箱を作る
 - ③ビーズブレスレットを作る
9. 「演劇のレッスン」
違う自分を見つけてみる。
10. 「カリンバ作り体験」
アフリカ・ジンバブエ発祥の民族楽器を作って、演奏を体験。
11. 「楽しく学ぼう！カブトムシ講座」
カブトムシのお話を聞き、カブトムシの家を作る。
12. 「あすパークライブラリー企画 トワイライト企画」
真夏の夜の怪談話「子供の頃に聞いた話、体験、本や映画の感想。」
13. 「寄り処やまとの森 元気に夏を乗り切るからだ作り」
椅子ヨガに取り組む。
14. 「みんなのひろばきらきら」
玉葱の皮で“染め”を体験する。
15. 「でゅあるコーラス」
楽しく歌う会。ギター伴奏で自分の歌いたい曲も皆と一緒に。
16. 気練りの会 (気功)
簡単な動きで気を巡らせ疲れ知らずに。

17. 「ふるさと料理と交流の会・食堂」

ふるさと料理を自ら作る。故郷語りでわいわい会食。

18. 「障がい者と家族の憩いのサロン」

障がい者の親や兄弟姉妹が悩みや思いを語り合い、ホッとできる場。

19. 「なだ実践ゼミ」

“なだ”を知り仲間に会い活動を始める。灘区が誰もが住みやすいまちになることを目指す。昨年度は30名が受講、修了生により4グループが立ち上がりつつある。(子ども交流サポート・多世代交流居場所・防災・企業連携)

20. 「中間支援人材研修事業」

地域課題の把握を起点とし、講座で初めて出会った受講生たちが目的ごとにグループを組成し、主体的に課題解決の担い手となっていくための伴走支援を行う。多世代交流の居場所、高齢者の生活支援、こども食堂など輩出してきた団体数は、1,000を超える。

○グループ創出の流れ

地域調査→講座→企画→仲間づくり→活動お試し→実施→組織化→事業評価

(3) 施設の設備

○オープンスペース

セミナーや教室などの開催に利用できるスペース。キッチンスペースと併用し子ども食堂を伴うイベントも可能。

○キッチンスペース

IH、冷蔵庫、オーブンレンジ、電気ポット、調理器具、食器が整備されたスペース。

○オフィススペース

Wi-Fi、複合機などが利用可能。団体の住所登録が可能で郵便物を受け取ることも可能。コーディネーターや利用者とながれる場。

○フリマボックス

ハンドメイド製品やグッズを試験販売できるコーナー。

○カフェ・情報コーナー

○ギャラリーコーナー

3、質疑応答

Q：飯田市にも「ムトス飯田助成事業」があるが「地域や社会のために何かしたい」を応援するのが目的となっている。その目的は同じだが「課題解決」と明言している点についてその背景などは？

A：多くは「つながりづくり、賑わいづくり」をする活動だが、それには課題解決という意識がなければ何かを生み出すことができないのではないかと。

やはり震災を体験し、水もないゼロどころかマイナスのところからの助け合いの経験があるからボランティアやNPO設立につながったのではないかと。

Q：セミナーやゼミに参加される方々の年齢層は？

	A： 60代、70代の高齢者が多い。若者が少ないことが課題。
感想(まとめ)・市に活かせること等	<p>4、今後飯田市に活かせること等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何か地域のためにしたい」と思う人が発足する良い環境である。 ・人が多く交流が少ない都会だからできるのか？飯田市には「ムトス」があるので NPO 立ち上げまでしなくても出来るのか？ ・人口減を迎え、予算と人材が乏しいからできない困りごとは地域にたくさん出てくる。これを市主体でやっていくことは無理である。ボランティアや NPO など人口減社会にあり得る形を作ってきたい。 ・子育て政策や福祉政策などで、ボランティアの力が必要となる場面が多いが、NPO 法人とすることが持続可能な体制づくりにつながるか研究が必要。 ・NPO 法人の立上げを助けるという視点。 ・地域課題解決のためのトライアル拠点とされているが、飯田市とすると公民館事業に近いと感じた。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

○会派として調査継続中。

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	会派新政いいだ (文責: 森本 紘司)	支出伝票No.	
事業名	兵庫県洲本市 地域に貢献する再生可能エネルギー事業		
事業区分 (該当へ〇)	① 調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

洲本市では2014年に洲本市バイオマス産業都市構想を策定し、バイオマス産業の創出・育成による地域産業の振興ならびに雇用創出、及びバイオマスをはじめとした地域自立分散型エネルギー供給体制の強化による環境にやさしく災害に強いまちづくりを目指す先進的な取り組みであり、調査研究先として選定した。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	令和7年 8月 1日 (金) 9時50分～ 11時30分	洲本市役所 企画情報部企画課政策調整係 高橋 壱

報告内容・実施したこと

1、視察先 (市町村等) の概要

【兵庫県洲本市】
 人口 40,613人 (毎年約600人減) 高齢化率 37% (2015年3月末時点)
 面積 182.38km² (淡路島の30.6%、県土の2.2%を占める)
 議員定数 18人
 平成10年の明石大橋海峡大橋開通により淡路島と本州は陸続きになり、平成18年に洲本市・五色町の合併。洲本市は淡路島の中心都市として人・もの・情報が集まる重要な拠点となっている。

2、視察内容

「地域に貢献する再生可能エネルギー事業のバイオマス産業都市構想」について

(1) 取り組み概要

【洲本市バイオマス産業都市構想の事業】

目的
 ・再生エネルギーの調達
 ・エネルギー自給率の向上
 ・温室効果ガスの削減
 ・廃棄物の削減

}

**“バイオマスでつながる環境未来
の里・すもと” の実現**

①竹資源の有効活用事業

- ・竹は繁殖力の強さから放置竹林化が進み、生物多様性や保水力の低下、土砂災害の危険性が増大を招くとともに農作物を食い荒らす野生動物の住処になるなど問題になっている。このことから洲本市では、「バイオマス産業都市構想」、兵庫県では「あわじ竹資源エネルギー化5か年計画」を策定し島内で年間500tの竹チップを製造利用すると目標にした。
- ・竹チップの出口確保と大量消費の為、国や県の補助金を活用し竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーを温浴施設に設置。
- ・竹の伐採・・・島内各地の住民組織やNPO法人
- ・竹の条件・・・太さ5cm以上の孟宗竹で長さ4mにそろえる。
- ・竹の買い取り・・・引き取り5円/kg、持ち込み10円/kg
- ・竹チップ販売単価・・・約30円/kg

～竹の利活用に関する課題～

- ・ボイラー設備の劣化が想定よりも早い。
- ・竹チップ製造に関する三者の採算面が厳しい。
- ・燃料化以外での利活用の推進（メンマなど）。

②菜の花・ひまわりエコプロジェクトおよびBDF、B5燃料事業の拡大

※BDF…バイオディーゼル燃料、B5…経由に5%以下の割合でBDFを混合した燃料

- ・元々は景観用として栽培を始め、後に搾油の可能性に気づき2002年から菜の花・ひまわりエコプロジェクトの推進開始（ひまわりは後に中止）。
- ・コンバインで収穫し菜種の乾燥・調整を行い、昔ながらの圧搾法で搾油する。搾油されたものは食用油になり、安心安全な地元特産品となっている。
- ・家庭で使用済みになった天ぷら油は分別回収され、ごみ減量や水質保全になっている。回収された油はBDFの工場で、化石燃料に頼らない再生可能なバイオマスエネルギーへ精製される。
- ・精製されたBDFは経由の代替燃料として利用される。市のマイクロバスの燃料にも使用されていたが、故障が多く現在は使用されていない。
- ・搾油されて残った菜種粕は肥料や飼料になり、良質な土づくりに貢献している。
- ・このプロジェクトにより、洲本市内で一連の環境サイクルが完成されている。

③微細藻類の有効活用事業

④バイオガス発電事業

⑤BTL製造事業



事業化に至っていない

【龍谷大学との連携による再エネ推進】

- ・龍谷大学は再生可能エネルギーの活用による地域活性化をテーマに洲本市で2013年から活動している。

①活動内容

ア) 自家消費型小水力発電施設の設置

- ・13人の集落の農業水路の落差を利用し水車を回し発電しており、集落のLED街頭や防犯カメラに使用。視察も多く、当初の賑わいづくりの目的も達成している。

イ) 農業用ため池に浮かぶソーラー発電所設置

- ・地域貢献型再生エネルギー事業の推進として農業用ため池に浮かぶソーラー発電所を設置し、売電利益を全額地域に還元されており地域活性化の為に活用されている。

再生可能エネルギーは地域活性化のツールのひとつ

3、質疑応答

Q、住民や企業からの反応は？

A、菜の花プロジェクトは見える形での取り組みが多く住民からの理解を得ることができたが、ため池プロジェクトには反対意見が多かった。地域還元型でも反対の声はある。企業からの反応はほぼない状態。

Q、地域の農業・漁業・観光とのエネルギー連携は？

A、BDFや電気を漁船やトラクターに使用したが技術的に問題があり中止している。

Q、竹チップ事業の採算は？

A、単体事業で収支を把握するのは難しいが、温泉施設で燃料を購入するよりは

	<p>安価。</p> <p>Q、竹伐採事業で、竹は抑制できているのか？</p> <p>A、淡路島全体の竹林は2,600ha、ボイラー事業の伐採は4・5haなので抑制効果は少ない。</p> <p>Q、竹を伐採する人材の確保は？</p> <p>A、採算が取れにくく、高齢化も進み継続が厳しい状況。</p> <p>Q、BDF事業の現状は？</p> <p>A、市の管轄では難しく、5・6年前から尼崎の業者に任せている。</p> <p>洲本市で集まる廃油は約1万リットルで、BDFの使用方法は業者に任せている。過去には洲本市でも古いマイクロバスに使用していたが故障が多く使用を止めた。</p> <p>価格も有償にすると責任が出るので、実験として無償で渡していた。</p>
感想(まとめ)・市に活かせること等	<p>4、感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なところで幅広く、再生可能エネルギー事業に取り組んでいることから、住民の再エネに対する意識醸成が進む。 ・竹を燃料にするという取組にて、伐採した竹の後利用として竹棚、竹炭、メンマ、竹を活用したワークショップイベントを飯田も行っているが、燃料として活用できるか検討したい。だが、コスト面や伐採する人材確保など課題は多い。 ・竹林整備は飯田市でも力を入れているが、チップとして利用するには原料の調達や乾燥、ボイラーのメンテナンスなど課題も多い。 ・飯田市各地において問題となっている放置竹林の課題解決に向けて、洲本市の取組は先進事例として大変参考になった。 ・構想から10年が経過して構想の見直しが必要だと述べていた。新しい社会への転換はそう簡単には進まない。行動、反省の繰り返しを経て新しい何かが見えてくる。未来への方向性は間違っていないと思うので、飯田市に合う何かを見つけていきたい。 ・地域内のステークホルダーを有機的につなげ、洲本市だからこそできるアプローチで課題解決にチャレンジしている点が参考になった。 ・再生可能エネルギーの利活用の取組は「地域活性化のためのツールの一つ」である。という考え方について、大変共感した。 ・先進的に市の運営としてバイオ燃料を取り扱ったが、今は民間委託。市のバス(ディーゼル機関)に使用していたが、故障が多く今は使用していない ・ウェルネスパークは大規模な施設であり運営維持は大変そうである。 ・竹のバイオマスボイラーを使用しているが、当初より竹伐採ができていないとの事。竹の搬入も少なく苦慮している模様。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

○会派として調査継続中。

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	飯田市議会公明党	支出伝票No.	
事業名	三田市・三田観光ビジョン「三田ふるさと未来図」を学ぶ		
事業区分 (該当へ○)	①調査研究費	②研修費	③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

三田市は、令和3年～8年度にかけて三田観光ビジョンを設定し、市の総合計画と連動した取り組みを実施中。観光を軸とした「心のふれあう田園文化都市」を掲げた取り組みを学ぶ

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	令和7年8月19日 9時30分～11時00分	兵庫県 三田市役所 三田市 産業振興部 次長 寛長雅博氏 まちのブランド観光課 課長 上月研一氏

報告内容・実施したこと	<p>1 視察先（市町村等）の概要 人口 105,949人（令和7年3月末現在） 面積 210.32km² 位置 兵庫県の南東部に位置し、神戸市街地より北へ約25km、大阪市より北西へ35kmの圏域にある。</p> <p>2 視察内容 ●三田市観光ビジョン「三田ふるさと未来図」の概要</p> <p>1. ビジョン名称「三田ふるさと未来図」</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさとに帰ってきたかのように自分らしくゆったりと過ごせるまち、ふるさとに帰るかのように何度も訪れたくなるまちを目指す 令和3年5月に策定し、計画期間は令和3年度～令和8年度の6年間。これは市の総合計画が令和8年度に見直しがあるため、それに合わせている <p>2. 「三田ふるさと未来図」の基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ①農村・市街地・ニュータウンからなるまちの魅力を、それぞれの背景にある重層的な歴史や生活文化をふまえて、三田ならではの多様なストーリー性あるコンテンツに磨き上げる。 ②チーム三田で協働し、地域の魅力をつないで発信する。 ③三田ファンを増やし、まちの活性化を図る。 <p>3. 観光を取り巻く社会背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人口減少社会➡交流人口、関係人口の増加によるまちのにぎわいをつくり、経済活動の振興 ②コロナ禍によるインバウンドと国内観光市場の縮小➡新たな観光の在り方の追求が必要 <p>4. 三田市の観光の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)三田市の観光施策の取り組み状況 <ul style="list-style-type: none"> ①情報発信事業、②三田の自然や食などを生かした事業、③スポーツアクティビティ ④歴史・文化を生かした事業、⑤広域連携 (2)観光入込客数の推移 H27…3,457人 H28…3,370人 H29…3,292人 H30…3,149人 R1…3,569人
-------------	---

5. 三田市の強み・弱み

・三田市の強み

- ・食、自然、里山の魅力
- ・市外からのアクセスの良さ
- ・人の魅力(地域に根ざして活動する
個性豊かな人が多い)
- ・際立つ個性がない強み
- ・学びの都市
- ・世界的に活躍する「さんだ夢大使」
- ・都市と農村の共存、職住接近による住みやすさ

・三田市の弱み

- ・公共交通機関での活動エリアが限定
- ・観光資源が生かされていない、
小規模・点在で連携不足
- ・周辺の有名観光地の集客力を活用しきれていない
- ・市民が三田で楽しみきれていない
- ・情報整備と発信力が弱い
- ・ブランド力と知名度が弱い
- ・住宅地のイメージが強い

6. 三田市の観光の課題

- ・①観光資源が点在し、連携した取り組みが十分にできていない
- ・②三田市の観光に関する情報整理が不十分で、効果的に情報発信ができていない
- ・③市民が三田の魅力に気づいておらず、十分に楽しみきれていない

7. 観光ビジョンの位置づけ

- ・【国】明日の日本を支える観光ビジョン、【県】ひょうごツーリズム戦略
【国・県】と関連し「三田市総合計画」を反映➡三田観光ビジョンを位置づけ

8. 「三田ふるさと未来図」の基本方針

- ・Ⅰ 見つめる〔魅力あるコンテンツづくり〕
- ・Ⅱ 広がる〔地域の魅力を発信〕
- ・Ⅲ つながる・育む〔ネットワークづくり、人材育成〕

9. 推進体制

- ・観光に携わるすべての主体が、連携、協働して推進
 - ・行政…観光まちづくりのためのネットワークづくり、仕組みづくり
 - ・観光協会…アクションプランの実現に向けた先導と事業者の支援
 - ・事業体・団体…多様なつながりを活用した創意工夫にあふれた事業の展開
 - ・市民…暮らしの中にある地域の魅力を見つけ、楽しみ、発信

10. 施策体系

○Ⅰ 見つめる〔魅力あるコンテンツづくり〕

- ・①ストーリー性のある三田らしい観光コンテンツの磨き上げ
- ・②観光コンテンツの周遊ルート化
- ・③社会情勢に応じたコンテンツづくり
 - ➡特徴的な取り組み(①～③の方向性から)
 - ・里山、食、アウトドア・キャンプ、アートなど多様な三田の魅力とふれあうたび、何度も繰り返し会いに行きたくなる魅力的な人とふれあうたび…「ふれあいたび三田」
 - ・農村、市街地、ニュータウンそれぞれに積み重なる歴史や生活文化から地域の暮らしぶりを

感想(まとめ)・市に活かせる点等	<p>学びたび…「学びたび三田」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自然と芸術にふれることができるアートの拠点を核に、三田の魅力をつなぎ合わせるルートづくり ・週末農業、週末キャンプ、週末ハイキングなど、自分なりの気軽な「週末ふるさと」を楽しめるコンテンツづくり <p>○Ⅱ 広がる〔地域の魅力を発信〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①旅マエ、旅ナカ、旅アトの観光情報の整備・発信 ・②人の魅力で発信 ・③多言語による情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ➡特徴的な取り組み(①～③の方向性から) <ul style="list-style-type: none"> ・事業者・団体・個人の SNS と連携して三田の魅力を発信する仕組みづくり ・県民局、ひょうご観光本部などと連携した観光情報の発信 ・さんだ夢大使をはじめとするインフルエンサーによる魅力発信 ・多言語観光パンフレットの作成、ホームページの整備など <p>○Ⅲ つながる・育む〔ネットワークづくり、人材育成〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①ネットワークとプラットフォームづくり ・②環境整備 ・③人材育成・組織強化 <ul style="list-style-type: none"> ➡特徴的な取り組み(①～③の方向性から) <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)三田市観光推進ネットワーク会議の立ち上げ・運営 ・様々な観光体験プログラムを集約・発信する仕組みづくり ・三田市観光協会の組織体制の強化 ・三田の玄関口である三田駅前での観光情報発信機能の拡充 ・大学や高校と連携した、観光によるまちづくりに関心を持つ若い人材の育成
	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市においても「いいだツーリズムビジョン」を策定しており、三田市の取り組みが飯田市の状況と非常によく似ていたために視察をさせていただいた。特に強みの部分は似通っており、今後の観光振興の視点について学ぶことができた。 ・飯田市と違いがある部分として、都市部(神戸市、大阪市)に近く交通の便の面では誘客や集客面の課題が解決できれば観光振興のさらなる効果が見込めると感じた、当地域についてはリニア中央新幹線の開業が10年以上先となるが、三遠南信道は着実に工事が進んでおり、10月にグランドオープンする道の駅遠山郷にも長野県の南の玄関口として期待したい。今後整備がされていく道路インフラや観光施設をいかに誘客・集客に繋げていくかが今後重要となる。 ・三田市においても人の魅力が強みであり人とふれあう旅を取り組みとしている、飯田市にも人の魅力があり、飯田市長の言われる上質なローカルを前面に強みとして人にスポットを当てた取り組みにも今後注視していきたい。 ・情報発信という面でも旅マエ、旅ナカ、旅アトといった視点からのアプローチには共感した、その取り組みから SNS を活用した事業者、団体、個人の取り組みなど地元地域からの発信力の強化は慣よな視点であると考え。この点は地元の市民が三田市の事を理解し好きでないとできないことであり、観光客を迎えるという面でも重要な視点となる。

感想(まとめ)・市に活かせる点等

・三田市の視察では非常に似た状況や視点を持っており、取り組みについても参考になった部分や勉強になった点も多数ありさまざまなご示唆を頂いた。一方で飯田市としても同じような強みや視点からの施策の実施となってしまうと他市と競合できなくなる可能性があるため、飯田市の特徴を生かした観光振興や少し尖った視点やニッチな視点から特定の方をターゲットとした観光客の囲い込みやリピーターの増加も必要ではないかと感じた。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・会派として観光施策については継続的に調査研究に取り組んでおり、観光をテーマとした一般質問を行う際の参考とし、今後の会派活動に役立てていく。
- ・会派として調査を継続して行う。

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	公明党	支出伝票No.	
事業名	おの（小野市）夢と希望の教育への取組み		
事業区分（該当へ〇）	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

少子化の中、地域人材育成をめざし、脳科学の知見を取り入れた「おの夢と希望の教育」を実施され、Society5.0を豊かに生きる力を育てている。平成16年より独自の「小中一貫教育」を進めており、児童生徒の学力向上の結果に結び付けている。

(2)実施概要

調査・研修の場合の	日時	訪問先・主催者等
実施日時と	令和7年8月19日	小野市教育委員会
訪問先・主催者	14時30分～16時30分	教育指導部長 藤井 潤氏 主幹 福本俊也氏

報告内容・実施したこと	<p>1 視察先（市町村等）の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵庫県東播磨のほぼ中心に位置。大阪や神戸などの阪神圏まで車で約60分 人口46,628人(2025.7.31) 面積92.94km² 高齢化率29.58%(2024.3) 神戸市、姫路市といった兵庫県下の二大都市のベッドタウンとしての機能を持つ そろばんの一大生産地であり、金物や伝統的工芸品の生産拠点としても有名 <p>2 視察内容</p> <p>○「おの夢と希望の教育」～脳科学の知見を生かした小中一貫教育への経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> 背景として、平成7年(1995年)阪神淡路大震災、平成9年(1997年)神戸連続児童殺傷事件などがあり、心の教育の大切さを認識した時代背景がある 平成16年(2004年)、こどもの学力低下問題が地域で上がり、当時の教育長の発案で東北大学(川島隆太教授)との基礎学力向上へ向けた取組が具体化していく <p>○「おの夢と希望の教育」の基礎をなす小中一貫教育とは</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中連携教育を平成16年にスタートさせたが、中1の壁が課題となり不登校の増加、荒れた校内等、状況悪化を想定し、子どもたちをどう乗り越えさせるかとの思いから小中一貫教育が始まる <p>○具体的な歩み</p> <ul style="list-style-type: none"> 小野市内小学校8校、中学校4校、私立の特別支援学校1校の計13校がある中で、中学校4校を中学校区ごとに4つに分け、各1ゾーンという設定をし、地域の特性に合わせた取組を始める 川の学校(隣に川が流れている学校)や、田んぼの学校(田園地帯にある学校)と称して、環境教育や水生生物を題材にした教育等を重視して取組を進めるというもの 校舎などは現状のままとし、中学校の先生が小学校へ出前授業に行ったり、研究授業をしたりと小中学校の先生の交流も盛んに行われている 一番変わった事は、小中学校の先生たちが仲良くなったこと。顔の見える関係性が築かれ、子どもの情報共有が盛んになった。更に、保護者間や地域間の情報共有も盛んになり面々のつながりが出来た事 脳科学理論を基にしたことも筋が通った教育を成している 15歳の卒業を迎えた時に、どういう姿になっているかを問いながら進めている 子どもたちがどう在りたいか、どういう大人になりたいか、どう将来未来を思い描いているかを大事にすることが小中一貫教育のポイント 全体をマネジメントしているのが「夢と希望の教育推進委員会」である。各学校から代表者名、学校長、教頭先生が参画し、小野市の教育の羅針盤として機能している。そこに属する各委員会では、小中学校の先生が特別学級も含め協議をしていく。小学校の先生のみでの会議体はほぼ無い
-------------	--

<p>報告内容・実施したこと</p>	<p>○「脳科学と教育」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川島教授の理論から、1歳～3歳で脳がグンと成長をするため、その時期を教育へ生かす ・10歳の壁とよく言うが、上手く使うと10歳の飛躍となり、下手に使うと壁となってしまう。脳は、10歳を過ぎると2回目の発達をする。よって、この時期を捉えて質の良い教育を導入しようというもの ・10歳からは、脳が自立しようとして大人の脳へ移行する。主体的に考え、判断し、表現する力を小学校5年生あたりから取り入れていく。知的好奇心を揺さぶる授業を組み立てていくことである ・小学校から中学校へ連続して繋げる事が大事になり、小中学校の先生が一緒になって考え、授業を組み立てている <p>○「おの検定」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野市独自の取組となるが、基礎学力を育成し、川島教授の脳科学理論と融合させ学力と心を育成させるもの ・1年に3回～4回検定を実施し、教育委員会にて採点をする。結果を学校へ戻し、弱点など挽回を図り再挑戦の機会も設定されている。家庭学習の習慣を身に着ける事も目的としており、家庭がんばりカードを使用して、計画的に勉強することを推進する。結果、中学校の定期テストでも事前準備を計画的にすることが身に付き、学力向上へ繋げている ・全国学力学習状況調査では、正解率も全国平均を上回っている <p>○「16か年教育」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的に中学校3年生までの教育を描く場合、15年とするところだが、赤ちゃんがおなかの中に居る時から既に脳科学教育は始まっている。よって、その1年をプラスして16か年教育を小野市は実施している ・睡眠、食事、コミュニケーションが、小さい頃から脳を発達させる為には重要としている ・早寝早起き、バランスの良い食事は脳の発達には欠かせない要素となる。親子の愛着形成には、コミュニケーションが不可欠であり、その為の脳トレ遊びなどを推奨し展開している ・赤ちゃん世代から中学校世代まで、脳科学理論を軸に科学的に組み立てられた取組を、子ども、保護者、地域、先生方が一緒に学び、成長を目指している
<p>感想(まとめ)・市に活かせること等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育は、小学校と中学校の先生たちの顔が見える関係づくりが大事と感じた。 ・子ども、家庭環境、保護者、地域の情報共有を小中連携にて進めることが、子どもを地域社会で育てる基礎になると学んだ ・川島教授の脳科学という知見を活かし、教育の軸として取組むことで、子どもの学力向上への根拠立てが明確になり、納得の教育となる。その為、家庭学習や日常が子どもの成長に生かされる。 ・授業で何を大事にすべきか、との問いに、川島教授は、基本的には自分の考えを書いてみる、そして人に説明をし、人と関わり合いながら、話し合いながら学ぶことが大事としている。児童生徒が主体の授業が一番強く子どもに残る、とのこと。まさに納得の考えと認識を新たにしたい。 ・デジタル技術の教育への反映は、“使いこなす”ではなく“使い分ける”と考えてもいいのではないか。ICT教育の在り方も検討が必要と感じた

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- 飯田市における学園構想へのヒントとしたい
- 会派として調査継続中

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	公明党	支出伝票No.	
事業名	南あわじ市 医療的ケア児(者)支援に対する取り組み		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

南あわじ市は、淡路市・洲本市の三市合同で「あわじ医療的ケア児のみちしるべ」を令和6年8月に発刊している。医療的ケア児(者)や家族の支援に特化した内容であり、あわじ医療的ケア児のみちしるべの発刊までの経緯や本の使用方法含め、医療的ケア児や家族に対する取り組みを学び、当市へ活かしたい。

(2)実施概要

調査・研修の場合の実施	日時	訪問先・主催者等
日時と 訪問先・主催者	令和7年8月20日 10時15分～12時00分	南あわじ市役所 市民福祉部福祉課 課長 澤田 晋吾氏 市民福祉部福祉課 障害福祉係 西川 純歩氏 新淡路病院 淡路障害者生活支援センター 淡路圏域コーディネーター 古東 千富氏 南あわじ市社会福祉協議会 南あわじ市医療的ケア児等コーディネーター 新地 友美子氏 身体障害者生活支援センターフローラすもと 洲本市医療的ケア児等コーディネーター 船越健太氏

報告内容・実施したこと	<p>1 視察先(市町村等)の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・淡路島の南部に位置。神戸から車で約1時間、大阪から車で約2時間。 ・年間180万人観光客が訪れる関西の人気観光地になっている。 ・人口43,201人 20,001世帯 高齢化率36.96%(令和7年8月末) 面積229km² ・特産品は 淡路島玉ねぎ 淡路ビーフ 淡路島3年とらふぐ 淡路島サクラマス 淡路島牛乳等 ・鳴門海峡のうずしおは世界遺産登録を目指して取組中 <p>2 視察内容</p> <p>(1)「あわじ医療的ケア児のみちしるべ」発行の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発行元 淡路障害者自立支援協議会 医療的ケア児等コーディネーター班 ・「あわじ医療的ケア児のみちしるべ」 目次 ①医療的ケアとは ②支援者とその役割について ③退院に向けて準備する事 ④生活の中で受けられる支援 ⑤災害時の対応 ⑥相談窓口 ・淡路障害者自立支援協議会は淡路三市(淡路市・南あわじ市・洲本市)で作っている。 ・淡路障害者自立支援協議会の中に障害者福祉担当者部会があり、その中の医療的ケア児等コーディネーター班が作成
-------------	---

- ・メンバーはコーディネーターの資格を取った方、行政や圏域のコーディネーター等多職種・生活支援の検討会や研修会等の取組みがあるが、その内の取組みの一つが「あわじ医療的ケア児のしるべ」
- ・5年ほど前から取り掛かり令和6年8月に完成
- ・相談支援専門員兼医療的ケア児コーディネーターが担当している医療的ケア児やその家族の困りごとを解消できたらと思い、医療的ケア児に特化したガイドマップを作りたいと思ったことがきっかけである。

医療的ケア児と家族の困り事

- ・退院後に地域に戻った際、困りごとを相談する先がすぐに見つからず、それまでの間が大変であったケース
- ・地域で保育園、就学に関して受け入れてもらえるかわからず、繋がるまで大変だったケース
- ・市役所に相談に行っても前例が無いと断られたケース
- ・直談判をしたケース
- ・福祉サービス含めてどんなサービスがあるのかわからなかったケース等
- ・淡路三市の相談支援専門員(医療的ケアコーディネーター含む)が担当の当事者家族にアンケートを使い聞き取り調査を行った。

アンケートの内容は年齢ごと(乳児期、幼児期、就園前、就園後、児童期、青年前期、青年期)に分け、困ったことやどんな情報やサービスがあったら良かったか、就学準備の時期をいつから始めたか、ガイドブックにどんなことを入れてほしいかなどとした

- ・テーマは「つながる」当事者家族が辛くなった時に開いて解決の糸口が見つかるように。日々の生活で精一杯の当事者や家族が、先の見通しを考えられるようなものになるように名前に「みちしるべ」が付いている
- ・各支援者の役割を明確にする意味もある
- ・ライフステージごとに誰に、どのように、どう繋がればいいのかを明確にする。誰にでも相談したい事を知らせる役割
- ・医療機関、保育園、学校、淡路島外の医療機関にも配布している(島外の県立こども病院にて治療を受けている方が淡路島に戻ってくる時に相談できる場所、つながる人を知るきっかけにしており、窓口に行けばもらえるとしている)
- ・サイズもバックに入るような大きさにしている。
- ・まずは「医療的ケア児のみちしるべ」を使用すること。必要あれば、修正等考えていかなければならない

(2) 医療的ケア児の実態把握について

- ・新生児から医療的ケアが必要な方には病院から保健師に連絡が入り把握する
- ・途中から医療的ケア児になった場合のつながりが出来ているかは把握が不十分の可能性あり
- ・淡路三市(南あわじ市・淡路市・洲本市)で現在10人程度
- ・地域移行の流れがある。児童発達の関係でつながりを持っている事もあるが、実態把握に関してはサービスや申請を希望する段階で、どの程度の困りごとがあるか、どうしたら保育所に入れるか等、関係者が会議を開いて対応を始めることが多い
- ・南あわじ市では、医療的ケア児支援体制を整えている最中。市内生活支援検討会(就園、就学、就労時)関係者に来てもらい検討している。就労に向けてのケースも検討している
- ・医療的スコアが低い方、成人等サービスに繋がっていない方は把握が不十分の可能性
- ・医療的ケア児だけでなく、医療的ケア者の把握もどうしていくか課題がある
- ・保健師や福祉課が窓口になることが多い

(3) 問題点課題についてどう受け止め、どう対応しているのか

- ・医療的ケア児等コーディネーター班は年4回研修を持っている。三市の様々なケースについて学んでいる
医療的ケア児コーディネーターの養成研修修了者は現在30人。医療と福祉を知っている方を増やしていく方向
- ・三市の状況はそれぞれどうなっているのか情報を集めて、取り残しがないようにしている
- ・班を作ったのは4～5年前。年2回フォローアップ研修を県の医療的ケア児コーディネーターがしている。課題としては養成研修修了者の方が市にスムーズに移行できていない。移行できるように今後も働きかけていく。
- ・淡路3市の行政の情報交換はスムーズ。平成19年から淡路障害者自立支援協議会の形になったので担当者の移動があっても情報共有しやすい。
- ・障害全般の淡路地域福祉サポートマップを作製した経緯あり。兵庫県が各市町に協議会を置くように、また、圏域担当のコーディネーターが福祉協議会と三市を回って協議会の必要性を話して行ったりしていった。その前は精神の協議会があって、負担金をもらっていた。そのような流れの中で、医療ケア児のコーディネーター班が出来た。財政支援も三市各20万円、計60万円。支援を受けるまで、協議会をなぜやりたいのかを細かく報告し、必要性を理解してもらうことで財政も協力してもらっている。
- ・終末期の医療的ケア児の対応については、家族の方は不安感が増すため、地元の小児科医師や訪問看護師が対応している。ご家族で看取りたいという家族に寄り添ったこともある。

(4) 居場所についてはどうしたらいいのか

例) 24時間酸素を必要としていた方の居場所について

- ・保育所に行きたい希望から保健所、行政等関係者会議をもちサポート介入
- ・本人の情報を整理したサポートブック作成
- ・緊急時の対応 情報登録カードを使用(消防、病院、かかりつけ医等 情報共有)
- ・酸素を使用しながら遊ぶ。酸素は保育園の先生が確認し行う。交換したら自分でシールを張り管理
- ・薬は自分で管理
- ・小学校入学時にはケース会議に小学校関係者も参加
- ・学習保証のため、病弱児学級を設置(保育園の先生が本人の出席状況を記録しておいてくれたことが証拠となり、病弱学級開始につながった)
- ・酸素ボンベの交換時のみ訪問看護師がついた
- ・中学はコロナ流行の為オンライン 高校は通信制
- ・現在大学1年生オンライン授業中。今まで経験していないことやどう就労していくのか課題である。就職に向けて面談。防災時の個別避難計画も考えている
- ・医療が小児科から成人診療科への移行困難な原因・本人家族の小児期主治医やかかりつけ医への依存
- ・重要なことは早期からの移行の提案が大切
- ・看護師不足であり、医療的ケア児が保育園や学校に行けない状況になってしまう。特に小学校の財政支援が不十分。看護師等の支援含め、就学できるか決まるのが2月であり、親御さん、子供さんの不安な時期になってしまっている

- ・淡路3市(南あわじ市・淡路市・洲本市)において医療的ケア児は10人であるが、人数が多い、少ないという判断ではなく、医療的ケア児やその家族の困りごとの解決に向けて三市が協力して取り組み、前を見て誰かと繋がっていてももらいたいという願いの中で「医療的ケア児のみちしるべ」を完成させた取り組みは素晴らしいと感じた。また、一人一人に寄り添う事の大切さを改めて認識した。
- ・淡路障害者自立支援協議会の組織が対象者に合わせた部会で構成され、それぞれの部会の取り組みによって支援が充実していることに感心した。部会の活動を行政と多職種が関わっている事で、支援に無駄がなくスピード感をもって支えていくことが出来ると感じた。
- ・淡路地域福祉サポートマップを軸に、手弁当で続けていた取り組みが形になっていった経緯をお聞きし、関係者の継続した取組みの大切さを実感した。
- ・保育園に通っていた医療ケア児の休園の理由を記録して、学校に通学する際の受け入れに不利な理由にならない証拠を提供してくれた保育園側の姿勢を知り、保育園の職員等大勢の方の善意に支えられていることを学んだ。
- ・今後、医療ケア児の実情をしっかりと把握するとともに、医療的ケア児(者)そして家族の不安や困りごとをお聞きし、必要な支援は何かを行政や、関係者で会議しチームで支え進めていく事が大切であると確認した。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・飯田市においても医療的ケア児の対応の参考にしたい
- ・会派として調査継続中。

令和7年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会派名	飯田市議会公明党	支出伝票No.	
事業名	2025年 新人議員セミナーin飯田『議員の資質向上と議会運営の基本』		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

本年4月に飯田市議会は改選期を迎え、無投票という結果ではあったが、定数23名に対し23名が立候補、立候補者全員が無投票当選という結果となった。
 今回、会派公明党としても現職2名に新人1名を加えた新たなメンバーでスタートを切るにあたり、議員としての基本の一部である『議員の資質向上と議会運営の基本』を学び、議会活動や議会運営における視点をしっかり持ち、今後の議会活動に役立てるものとする。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	令和7年8月21日 13時30分～16時00分	飯田市 勤労者福祉センター 講師 自治体議会研究所代表 高沖秀宣氏

報告内容・実施したこと	<p>1 視察先(市町村等)の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田市での研修のため割愛。 <p>2 視察内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●『議員の資質向上と議会運営の基本』 ・高沖氏のコンセプトは「改革の底辺から底辺の改革へ」…主には二元代表制の実践 <p>1. 議会の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的に「市議会は議決機関」といわれ「市長は執行機関と呼ばれている」が「議会を議決機関」と決めつけて良いか。誰が「議決機関」といつているのか。…市議会は「議事機関」である。 ・「議会と市長は車の両輪」の意味を間違えない。…議会は議会としての車に乗り、ハンドルは議長、アクセルは過半数である。議会の車には議会事務局を必ず乗せる、議会と事務局が車の両輪であるべきであり、市長の車に乗ってはいけない。 ・「議事機関の根拠」…憲法93条と地方自治法89条である。 ・「議事機関とは」…審議する機関であり、熟議する機関である。 ・議決機関としての議会の機能…団体意思の決定機能。 ・長その他の執行機関の事務執行に対し、これを監視する機能…憲法上、いわゆる「二元代表制」が要請されている。 ・議事機関としての審議・議決・議案提出を通じ、政策形成機能を担う…自治体議会としては2つの機能が重要とされている。「①執行機関の監視・評価機能」と「②議会からの政策形成機能」であるただし、政策形成機能の強化は、消極的な議会が多い。 <p>2. 議会運営の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「二元代表制」について…二元代表制における議会の役割をどう捉えるか? ・議会は首長の追認機関ではない!! ・二元代表制の意義…何をするための議会なのか? 議会の存在意義はなにか? 二元代表制は機能しているか?
--------------------	---

3. 通年制議会について

- ・通年制議会を導入したことによって、議員力はアップしたか?…通年議会は議員同士の議論を重視する点にその神髄はある。
- ・通年議会のメリット…高沖氏曰く「議会のメリットは多いが、議員のメリットはない。」この点は市民益という視点からすれば導入する意義は大きい。

4. 政策提案の原点

- ・①予算修正
- ・②政策提言書等の作成

5. 議員力・議会力の強化

- ・議会改革とは何か?…議会改革とは二元代表制を迫及していくこと、二元代表制を実質化していくこと。
- ・議会が二元代表制の下で、議会の役割を十分に発揮するために、その機能を強化すること…「議会力の強化」
- ・一人の議員の意見は、議会の意見ではない。
「機関としての議会が実現されているか」
「二元代表制が実践されているか」
- ・議会改革を測る基準(3つ)
①政策力の強化、②主権者の参画、③議会機能の強化

6. 政務活動費の活用

- ・返還せずに、全額を適切に使用すること。…主として、政策の調査研究費で使用し、政策提言・政策立案等に活用すること。

7. ポストコロナ時代の議会運営

- ・①多様性のある議会…女性が立候補しやすい環境の整備、女性議員が過半数。
- ・②オンラインによる委員会の開催と一般質問に限り本会議でオンラインで行うことの検討。
- ・③オンラインによる本会議の開催。
- ・④議員政治倫理に関する条例の制定…最近ではハラスメント防止に関する条例の制定も目立ってきている。

- ・今回の研修は「新人議員特別セミナー」ということであったが、新人議員含め2期生、3期生議員も改めて学ぶことで深い理解ができたと感じている。
- ・議会は市の追認機関ではなく、また議決機関は一側面であり、本来は「議事機関」であることを常に忘れてはいけないと肝に銘じる事ができた。
- ・今後は「行政評価委からの政策提言」と「決算から予算へ」との飯田市議会の政策サイクルの重要性と実効性を持たせながら政策提言だけでなく予算案へ議会としてどのように民意を反映させていくのか、状況によっては否決し修正案を出すことまでできるようになるにはどうしてら良いのか。まだまだ取り組むべき課題は多いと感じた。
- ・今回の研修から飯田市議会のこれまでの取り組みが、市民益向上のために寄与しているのは間違いないと確信し、自身にもつながった。この点を今後どう市民に理解してもらい、ある意味では見える化していきながら、議会の重要性、必要性を市民に感じてもらいながら、議会への関心を今以上に持ってもらえる活動の必要性を感じた。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・今回の研修は会派全員で参加し、一定の理解と認識の共有を図ることができた、今後の議員の資質向上と議会運営へ役立てていく。